

震災前にも輪島を訪れたことがあったので、輪島の被災状況にショックを受けました。ただ、ボランティアで出会った輪島の人たちは、仮設倉庫を建てるなど新たな行動を起こしていて、その前向きな姿がすごいと思いました。

芸術文化学部 4年

被災地へ行くと、テレビで報道されていたままの光景が目の前に広がっており、心を痛めるとともに自然災害の恐ろしさを肌で感じました。ただ、そのような状況下でも、自分たちの生活と向き合い前に進もうとしている姿が輪島にはあることを今回のボランティアで知り、強く心が打たれました。どんな小さなことでも、お手伝いできることがあれば、ぜひまた参加させていただきたいと思いました。

芸術文化学部 4年

テレビの映像である程度の様子は知っていましたが、潰れた家をこの目で見ると、あまりの非現実さに、脳が受け入れるのを拒否してしまいました。しかしその中でも生活をしている人たちの姿があり、災害とは、フィクションでも遠いところの話でもなく、日常の延長線にあるのだと実感しました。

実際に目で見て、話を聞いて、私自身ができることとして、防災の見直しの必要性を強く感じました。数日を凌ぐグッズだけでなく、家に住めなくなったら、仕事ができなくなったら、あらゆる想定に備える必要があります。

芸術文化学部 3年